

現代アートにおける“若手作家の登竜門”

『VOCA展2015 現代美術の展望－新しい平面の作家たち』開催！

おのこうせき
=VOCA賞／小野耕石さん(埼玉県在住)=

会期:2015年3月14日(土)～30日(月)／会場:上野の森美術館

今年で22年目となる「VOCA（ヴォーカ）展」(The Vision of Contemporary Art／主催:「VOCA展」実行委員会／公益財団法人日本美術協会 上野の森美術館、協賛:第一生命保険株式会社)が、3月14日(土)から3月30日(月)までの17日間(開館時間:10:00～18:00／会期中無休)、「VOCA展2015 現代美術の展望－新しい平面の作家たち」と題して、上野の森美術館(東京都台東区)にて開催されます。

『VOCA展2015』では、作家34名による出品作の中から、グランプリとなるVOCA賞に、シルクスクリーンで数十から百回ほどインクを重ねるという独自のスタイルで作品を制作する小野耕石さん(美術家・版画家／岡山県出身、埼玉県在住)の「Hundred Layers of Colors」(4頁参照)が決定したほか、VOCA奨励賞には岸幸太さん、水野里奈さん、佳作賞には松岡学さん、松平莉奈さんが選出されました。また、大原美術館賞には川久保ジョイさんが同美術館独自の選考を経て選出されました。

「VOCA展」は、現代アートにおける平面の領域で、国際的にも通用するような将来性のある若い作家の支援を目的に1994年より毎年開催している美術展です。

日頃から公平な立場で作家たちと接している全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどから推薦委員を選出し、それぞれ40歳以下の若い作家1名を推薦していただき、推薦された作家全員に展覧会への出品を依頼しています。こうしたシステムのため、東京のみならず全国で活躍する作家たちにスポットがあたることが同美術展の特徴の1つです。

これまで「VOCA展」に出品した作家は、延べ754人。福田美蘭(1994年VOCA賞)、やなぎみわ(1999年VOCA賞)、蜷川実花(2006年大原美術館賞)、清川あさみ(2010年佳作賞)など多方面で活躍している作家たちが出品しています。この間VOCA展は「平面」という一貫した切り口で若い世代の動向をヴィヴィッドに反映しながら、まさに「今日の美術」を見せてきました。

『VOCA展2015』受賞者一覧

■VOCA賞

作家名	現住所	作品名	素材
小野 耕石 (おの こうせき)	埼玉県三郷市	Hundred Layers of Colors	油性インク、紙

■VOCA奨励賞

作家名	現住所	作品名	素材
岸 幸太 (きし こうた)	千葉県八千代市	BLURRED SELF-PORTRAIT	ゼラチンシルバープリント
水野 里奈 (みずの りな)	愛知県名古屋市	みてもみきれない。	ボールペン、油彩、カンヴァス

■佳作賞

作家名	現住所	作品名	素材
松岡 学 (まつおか がく)	東京都立川市	光の塔	銀箔、木炭、岩絵具、金属粉、パネル
松平 莉奈 (まつだいら りな)	大阪府大阪市	青	墨、胡粉、染料、顔料、膠、麻紙

■大原美術館賞

作家名	現住所	作品名	素材
川久保 ジョイ (かわくぼ じよい)	東京都文京区	千の太陽の光が一時に天空に輝きを放つたならば	ピグメントプリント

【会期中にさまざまな関連イベントを実施】

『VOCA展2015』では作品展示のほか、シンポジウム「VOCA展とは?」<3月13日(金)15:00~17:00>をはじめ、受賞作家による「アーティスト・トーク」<3月14日(土)、21日(土)15:00~16:00>、「学芸員によるトーク」<3月15日(日)、22日(日)15:00~16:00>などを開催します。

加えて、上野の森美術館の別館ギャラリーでは、VOCA展にゆかりのある作家の企画展を同時開催します。今回は、「VOCA展'97」でVOCA賞を受賞した小池隆英さんによる個展を開催します。

※詳細は8ページをご参照ください。

【公式ページで「VOCA展」の情報を公開】

上野の森美術館ホームページ内では、『VOCA展2015』の最新情報を随時公開します。

<http://www.ueno-mori.org>

【第一生命南ギャラリー】

第1回開催よりVOCA展の運営をサポートしている第一生命保険株式会社は、毎回VOCA賞、VOCA奨励賞受賞作品を買い上げ、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命南ギャラリー(東京都千代田区)での定期公開に加え、全入賞者に対して、同ギャラリーを個展の会場として提供しています。

なお、第一生命南ギャラリーでは、『VOCA展2015』に関連して、過去の受賞作品を展示する「第一生命ギャラリー所蔵作品展」<2月20日(金)~3月31日(火)>を開催します。

※詳細は8ページをご参照ください。

VOCA展実行委員会

- | | | |
|--------|--------|----------------------|
| ■委員長： | 高階 秀爾 | (大原美術館館長) |
| ■副委員長： | 酒井 忠康 | (世田谷美術館館長) |
| | 武富 正夫 | (第一生命保険株式会社執行役員) |
| ■委員： | 建畠 哲 | (京都市立芸術大学学長) |
| | 本江 邦夫 | (多摩美術大学教授) |
| | 笠原 美智子 | (東京都写真美術館事業企画課長) |
| | 片岡 真実 | (森美術館チーフ・キュレーター) |
| | 佐賀 奈穂 | (第一生命保険株式会社DSR推進室次長) |
| | 鈴持 邦弘 | (上野の森美術館事務局次長) |

「V O C A 展 2 0 1 5 」 開催概要

◆名 称	「V O C A 展 2 0 1 5 現代美術の展望－新しい平面の作家たち」	
◆主 催	「V O C A 展」実行委員会、公益財団法人日本美術協会 上野の森美術館	
◆協 賛	第一生命保険株式会社	
◆会 場	上野の森美術館（東京都台東区上野公園 1-2） http://www.ueno-mori.org/	
◆会 期	2015年3月14日（土）～3月30日（月）〔17日間／会期中無休〕	
◆開館時間	10:00～18:00 ※入場は閉館30分前まで	
◆入 場 料	一般・大学生：¥500、高校生以下：無料	
◆図 錄	¥2,000	
◆推薦委員	「V O C A 展」実行委員会から選出された全国の美術館学芸員、研究者、ジャーナリストなどに、作家1名の推薦を依頼	
◆出品作家	<ul style="list-style-type: none">・推薦委員の推薦に基づき、「V O C A 展」実行委員会より依頼した作家・1975年1月1日以降生まれ（40歳以下）・国籍不問・過去21回開催した「V O C A 展」の出品作家（受賞者含む）も可	
◆出品作品	<ul style="list-style-type: none">・平面作品・抽象、具象、素材は問わない・出品時からさかのぼって1年以内に制作された、未発表の作品・作品サイズは、250cm×400cm以内の壁面（タテ形、ヨコ形は不問）に展示できるもの・作品単体のサイズ（輸送時）は、250cm×200cm以内とし、複数の作品、パネル等のジョイントにより250cm×400cm以内の壁面に展示できるものとする 例：250cm×200cmのパネル2枚を会場でジョイントして250cm×400cmとすることは可 250cm×400cmの巻キャンバスと木枠を会場で組み立てることは不可・作品の厚さは、20cm以内・作品の重量は、総重量80kg以内、個々で40kg以内・展覧会場で制作および長時間の展示作業を必要としない完成作品 複数の作品もしくは部分で構成される場合は明確な展示図面、指示書を提出すること* 展示に支障をきたす作品は不可* 作品は第三者の権利（著作権、肖像権など）を侵害しないこと* 作品の展示場所は、主催者側の判断で決める* 展示壁面の高さは、250cm～500cm（展示室によって異なる）	
◆選考委員	<p>高階 秀爾（選考委員長／大原美術館館長） 酒井 忠康（世田谷美術館館長） 建畠 哲（京都市立芸術大学学長） 本江 邦夫（多摩美術大学教授） 笠原 美智子（東京都写真美術館事業企画課長） 片岡 真実（森美術館チーフ・キュレーター）</p>	
◆賞	<p>V O C A 賞 1名 正賞および副賞（300万円） V O C A 奨励賞 2名 正賞および副賞（100万円） 佳作賞 2名 正賞</p> <p>※上記3賞は、選考委員が選考します ※選考により、「該当者なし」のこともあります ※V O C A 賞、V O C A 奨励賞は、第一生命保険株式会社の収蔵作品となります</p>	
	<p>大原美術館賞 1名 正賞および副賞 ※大原美術館賞は、館の代表者がV O C A 賞、V O C A 奖励賞以外から選定し、作者の了解のもと、同館の収蔵作品となります</p>	
	<p>※上記4賞（最大6名）の入賞者には、第一生命ギャラリーでの個展の機会が与えられます</p>	

※第一生命保険株式会社は、V O C A 展の運営サポートを行うほか、受賞作品を買い上げ、本社1階にあるロビーでの展示や、第一生命ギャラリー所蔵作品展で同作品の定期的な公開を行っています。また、受賞者による同ギャラリーでの個展も随時開催しています。



小野 耕石(おの こうせき)

「Hundred Layers of Colors」

油性インク、紙

[245cm×390cm ※75cm×90cm の作品が12点]

●VOCA賞受賞者 小野耕石さんのコメント

「僕の制作のきっかけとなる事柄は夏の夕暮れ、毎夜アトリエをおとずれる様々ないでたちをした蛾であった。気味が悪く急にぱたつくあのぶりぶりした腹は皆に嫌われる十分の理由であるかもしれない。しかしながら全身にまとうあの乾いたパステル調の鱗粉の美しさは絵にも描けない狂気にも似た魅力があった。おそらくそのおぞましい風体との差異でさらに美しく見えるのだろう。この頃から絵具をあつかう者として思案していたこと、絵具でこの触覚的な感覚にまでたどりつけないか。この作品はそんな思案からの産物である。」ちょうど1年前、ある展覧会に向けて書いた文章。表現行為とはそれほど単純で純粋ではないが、提出される作品に期待されること。それは選び取られた「答え」である。

◇推薦委員・長門佐季氏のコメント（会場における本作品鑑賞のポイント）

前後左右に動きながら見てください。角度によって作品の色や表情が微妙に変化していきます。近づいてみると、画面には幾層にも色の重なった小さな無数の柱。シルクスクリーンでドットに百回ほどインクを重ねた小野耕石の作品の、通常の版画とは異なる独自の質感は、見るという行為を通じて、見る者と親密な関係性を築きます。

「V O C A 展 2 0 1 5 」その他の受賞作品

【V O C A 奨励賞】



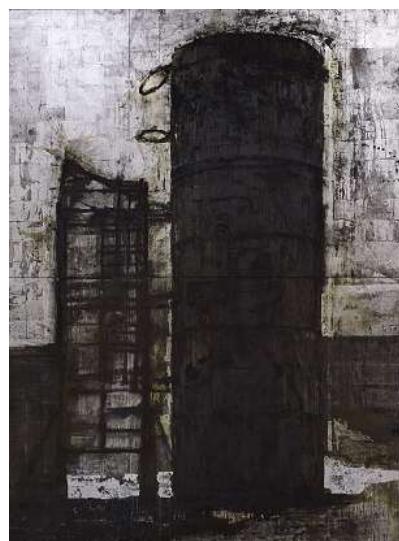
岸 幸太(きし こうた)
「BLURRED SELF-PORTRAIT」
ゼラチンシルバープリント
[169.6cm × 268.8cm (額込み)]

【V O C A 奖励賞】



水野 里奈(みずの りな)
「みてもみきれない。」
ボールペン、油彩、カンヴァス
[227.3cm × 363.6cm]

【佳作賞】



松岡 学(まつおか がく)
「光の塔」
銀箔、木炭、岩絵具、金属粉、パネル
[332cm × 243cm]

【佳作賞】



松平 莉奈(まつだいら りな)
「青」
墨、胡粉、染料、顔料、膠、麻紙
[196cm × 238cm]

【大原美術館賞】



川久保 ジョイ(かわくぼ じよい)
「千の太陽の光が一時に天空に輝きを放ったならば」
ピグメントプリント
[300cm × 240cm]

たかしなしゅうじ

選考委員長 高階秀爾（大原美術館館長）

今回の「VOCA展2015」は、これまでにも増して多彩多様な作家像を見せた。VOCA賞を得た小野耕石の「Hundred Layers of Colors」は、無数の柱状突起を連ねた画面が豊麗な色彩を含んでいることを見る者に実感させる卓抜な構成。奨励賞の水野里奈は横溢するイメージの豊かさで、岸幸太は深奥な「自画像」表現によって見る者を虜にする。佳作賞2点も今回の収穫。大原美術館賞の川久保ジョイ作品は、特異な手法で光彩の輝きを鮮烈に捉えた秀作。

さか い ただやす

酒井忠康（世田谷美術館館長）

例年と比較して、とくに目立つ作品の傾向は感じられませんでした。あえていえば、高度に技巧を凝らした作品に興味深いものがあったということでしょうか。当然のことですが、平面（＝絵画）の可能性を拓くという、この展覧会の約束に沿った作品を対象に、選考にあたりました。なかでも注目したのは版画と写真の作品です。版画や写真是いうまでもなく間接的な表現媒体です。ですから技巧を凝らす工夫の経験が微妙に作品に反映します。ちょっとした観念や思いつきでは手元に置けない表現媒体なのです。高度に技巧を凝らした作品といったのは、そういう意味のことで、それ自体に芸術的な価値を見たというではありません。

たてはたあきら

建畠哲（京都市立芸術大学学長）

VOCA展は、このところ具象が主流を占め、また物語性を宿した作品が多く見られたが、今回はそうした傾向はやや抑制され、抽象的な表現が復活してきているといえよう。小野耕石のVOCA賞の作品は、離れて見ればグリッド状に配列した流動的な色面でありながら、同時にシルクスクリーンの層を無数に刷り重ねるという特異な技法によって半ばレリーフ化された色彩の芳醇さが引き出されているという興味深い試みがなされている。奨励賞の水野里奈の作品は多様なイメージを一見乱脈に交錯させながらも、相互に快く響き合うような空間を出現させうる画家としての伸びやかな資質に惹かれた。

もとえくにお

本江邦夫（多摩美術大学教授）

絵画とは何か？もっとも即物的には「支持体と絵具の合体」であることを、色層を重ねるというもっとも単純なやり方で示した小野耕石さん。実践的には「地と図」の駆使であることに執拗にこだわり、かつてない重厚な画面を生み出した水野里奈さん。「存在」を映し出す写真の特性を活かした岸幸太さん。黒々とした画材に「時代」を担わせた松岡学さん。余白を晴朗な時の「移ろい」と見立てた松平莉奈さん。それぞれに見応えがありました。

かさはら み ち こ

笠原美智子（東京都写真美術館事業企画課長）

現代美術の多様性を実感する審査となった。「なんもあり」はここ20数年の現代美術のキーワードだと思っているが、VOCA展のように、平面作品と限定していても、一回の審査でこれだけの手法とテーマが出品される。健全だと思う。受賞は長年作品を作り続けてきたベテランと、まだ20代前半の新顔に二分された。受賞者に加えて、受賞には至らなかったが、福田龍郎氏、本城直季氏、衣川明子氏の作品も強い印象を残した。

かたおか ま み

片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

新しい平面作品の制作に関して、多様な試みが見られたように思う。とりわけ、近年のVOCA展に見られた私的物語性や淡い色調が特徴的なものだけでなく、イリュージョンとしての絵画を越えて、素材の物質性、像を視覚化するための光、歴史的・社会的テーマ等を扱った表現が評価されたことは、本展の今後に可能性を感じさせる出来事だった。同時に、20年を経たVOCA展が問い合わせてきた課題について、再確認する必要性を共有出来たことも収穫だったといえる。

「V O C A 展 2 0 1 5 」 出品作品一覧 (作家 34 名 / 50 音順)

作家名	現住所	作品タイトル	素材
今井 俊介	東京都小平市	untitled untitled	アクリル、カンヴァス
榮水 亜樹	埼玉県春日部市	守る	アクリル、水彩、綿布、パネル
奥村 雄樹	ベルギー	現代美術の展望はどこにある？	ポリカーボネート
小野 耕石	埼玉県三郷市	Hundred Layers of Colors	油性インク、紙
笠見 康大	北海道札幌市	Untitled/支える構造	油彩、カンヴァス
加茂 昂	埼玉県飯能市	世界を新しく美しいとおもう。	油彩、カンヴァス
川久保 ジョイ	東京都文京区	千の太陽の光が一時に天空に輝きを放つならば	ピグメントプリント
岸 幸太	千葉県八千代市	BLURRED SELF-PORTRAIT	ゼラチンシルバープリント
衣川 明子	千葉県東金市	無題	油彩、カンヴァス
ジョミ・キム	東京都中央区	Untitled	ラムダプリント
齋 悠記	沖縄県沖縄市	てはうえ、あしはした ひかりのつぶは、いりぐち	アクリル、パステル、紙、エマルジョン下地、 パネル
鋤柄 ふくみ	愛知県岡崎市	楽園	油彩、カンヴァス
鈴木 興	東京都小平市	ハウス	油彩、カンヴァス
瀬尾 夏美	岩手県気仙郡住田町	波のした、土のうえ	アクリル、鉛筆、布、紙、板
武田 浩志	北海道札幌市	portrait221	アクリル、金箔、ラメ、印刷物、木製パネル
武田 雄介	石川県小松市	無題(景)	油彩、蜜蠍、カンヴァス、パネル、木材
竹村 文宏	京都府京都市	プラルワ広場にて	アクリル、カンヴァス、パネル
長谷川 由貴	大阪府高槻市	悲しみの熱温	油彩、カンヴァス
原田 圭	山形県上山市	いれるか、ひらくか、うらがえすか	顔料、石膏、膠、パネル
平野 泰子	大阪府大阪市	Twilight 1409	油彩、石膏、膠、カンヴァス、木製パネル
福田 龍郎	東京都東久留米市	Infinite Islands 1401 Infinite Islands 1402	ラムダプリント、アクリルマウント
本城 直季	千葉県我孫子市	Industry #1 2014	クロモジエニックプリント (chromogenic print)
牧野 真耶	千葉県松戸市	金木犀 金木犀	胡粉、膠、藍
松岡 学	東京都立川市	光の塔	銀箔、木炭、岩絵具、金属粉、パネル
松平 莉奈	大阪府大阪市	青	墨、胡粉、染料、顔料、膠、麻紙
松本 寛庸	熊本県山鹿市	国盗り絵巻 2	水性ペン、色鉛筆、画用紙
mariane	大阪府大阪市	①RAIJINKODOMO ②FUJINKODOMO	アクリルガッシュ、和紙、木製パネル
水川 千春	長野県大町市	しし滝	水、海水、母乳、土、紙(あぶりだし)
水野 里奈	愛知県名古屋市	みてもみきれない。	ボールペン、油彩、カンヴァス
ミヤギ フトシ	東京都世田谷区	17Notes from the South	切手、デジタルプリント、ファウンドフォト、インク、 紙、木板
村瀬 裕子	大阪府三島郡島本町	無題 無題	油彩、カンヴァス 油彩、綿布
村田 峰紀	群馬県前橋市	breakthrough drawing	ボールペン、合板
森 紗乃	大阪府八尾市	①誘導される身体 ②しごれとほてり	紙粘土、アクリル、透明水彩、チャコペン、 色鉛筆、パネルに綿布
横山 奈美	茨城県取手市	①かたち創るもの ②抜け殻は本当の姿 ③可愛い子	油彩、木製パネルに麻布

「V O C A 展 2 0 1 5 」 関連企画

■シンポジウム「V O C A 展とは?」 ※要申込み(下記参照)／定員: 150名

日時: 3月13日(金) 15:00~17:00／場所: 上野の森美術館

パネリスト: 高階秀爾、酒井忠康、建畠哲、本江邦夫

ディスカッサント: 笠原美智子、片岡真実(敬称略)

＜シンポジウムお申込み・お問合せ＞

住所・電話番号・氏名と、シンポジウム参加希望を明記のうえ、FAXまたはeメールにてお申し込みください。

定員となり次第、締め切らせていただきます。

◎申込み先: 上野の森美術館「V O C A 展」係

FAX: 03-3836-0066

eメール: voca2015@ueno-mori.org

※申込みの際に取得した個人情報は、申込み者への通知および予定変更等の連絡のみに使用いたします。

◎問合せ先電話番号: 03-3833-4191(上野の森美術館)

■受賞作家によるアーティスト・トーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要です。

受賞者が自作について語ります。(以下敬称略)

日時: 3月14日(土) 15:00~16:00

小野耕石(VOCA賞)、水野里奈(VOCA奨励賞)、松平莉奈(佳作賞)

3月21日(土) 15:00~16:00

岸幸太(VOCA奨励賞)、松岡学(佳作賞)、川久保ジョイ(大原美術館賞)

場所: 上野の森美術館

■学芸員によるトーク ※申込み不要。ただし、展覧会の入場券が必要です。

上野の森美術館学芸員が出品作品を紹介します。

日時: 3月15日(日)、22日(日) 15:00~16:00

場所: 上野の森美術館

■小池隆英 New Works 展

日時: 3月14日(土)~30日(月) 10:00~18:00

場所: 上野の森美術館ギャラリー

上野の森美術館の別館ギャラリーでは、V O C A 展の会期に合わせ、同展覧会にゆかりのある作家の企画展を開催します。今回は「V O C A 展'97」でV O C A 賞を受賞した小池隆英さんの個展です。

■「第一生命南ギャラリー」展示スケジュール(2015年1月現在)

開館時間: 12:00~17:00 ※土日祝日休館

場所: 東京都千代田区有楽町1-13-1 第一生命保険株式会社 日比谷本社1F

展覧会名	会期
第一生命ギャラリー所蔵作品展	2015年1月8日(木)~2月6日(金)
第一生命ギャラリー所蔵作品展	2015年2月20日(金)~3月31日(火)

※「V O C A 展 2 0 1 5 」の作品画像や招待券読者プレゼント等のご要望につきましては、下記広報事務局にて承りますので、ご一報ください。

《この件に関するお問合せ先》

V O C A 展広報事務局(株)ジェーワン内／担当: 久保、野尻 TEL03-3584-4981／voca_pr@jone.jp

上野の森美術館(担当: 坂元、大柳) TEL03-3833-4191

第一生命保険株式会社(担当: 安部、露木) TEL050-3780-5776